授業科目	子どもの保健					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	1	開講時期	後期
担当教員	藤田　稔子						
授業概要	この授業は、保育士資格取得のために必要な科目です。乳幼児は、よく発熱したり体調を崩したりします。そのため、乳幼児を対象とする保育者は、乳幼児の身体の構造と機能及びその発達と、よくみられる疾患について理解しておく必要があります。この授業では、それらの基礎的知識と、それらの知識を活かして、保育現場で必要な疾病予防や対処方法も併せて解説し、根拠に基づく実技演習も併用しながら習得できるように授業を構成しています。						
授業形態	講義			授業方法	技術演習		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	保育現場における保健活動が展開できる以下の知識を最小限有し、養護技術の手順も理解できている 1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義が理解できる（DP1-2） 2. 子どもの身体的な発育・発育と保健について理解できる（DP1-2） 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解できる（DP1-2） 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解できる（DP2-1）
理想的レベル	標準レベルに加え、必要な知識を裏付け根拠とし、必要な養護技術を現場で使えるレベルまで習得できている

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	60%	定期試験期間中に実施する持ち込み不可の試験
小テスト		
レポート		
発表（口頭、プレゼンテーション）		
レポート外の提出物	10%	技術演習時の記録シート（1 回 5 点×2 回）
その他	30%	ノート作成（15 点）、授業の取り組み度（25 点）

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	○	DP3	-	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	CH11204J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）
予習：該当教科書箇所を読む、復習：講義内容及び自身で調べた内容も含め、ノートを作成する	4

授業計画

第 1 回	テーマ：子どもの心身の健康と保健の意義

	生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的を前提に、現在社会における子どもの健康状況や課題、地域における保健活動（児童虐待防止含む）について解説する。その中から、子どもにとっての健康の概念と健康指標を明確化させます
第 2 回	テーマ：子どもの身体的発育・発達と保健 妊娠期からの身体発育及び運動機能の発達を解説し、子どもたちの生理機能がどのように発達していくのかを説明します
第 3 回	テーマ：子どもの心身の健康状態とその把握 子どもの健康状態を把握するために必要な知識を解説し、正しい体温測定方法や子どもの心身の健康状態の見方をデモンストレーションします
第 4 回	テーマ:子どもの疾病と予防及び対応 1　概論・先天性疾患 子どもの病気の特徴を捉え、病気の症状とそのケアについて解説します。また、先天異常について述べ、生まれながらに障害や病気を持って生活をする子どもたちへの関わりを説明します
第 5 回	テーマ:子どもの疾病と予防及び対応 2　呼吸器・循環器 呼吸器と循環器の構造と機能を説明した後、子どもによく見られる呼吸器疾患と循環器疾患について解説します
第 6 回	テーマ:子どもの疾病と予防及び対応 3　血液・悪性腫瘍 血液の種類とその役割を説明した後、子どもによく見られる血液疾患及び悪性腫瘍について解説します
第 7 回	テーマ:子どもの疾病と予防及び対応 4　白血病 白血病に関する動画を見て、白血病及び白血病と闘っている子どもの理解と保育者としての役割を共に考察します
第 8 回	テーマ:子どもの疾病と予防及び対応 5　消化器・泌尿器・生殖器 消化器の構造と機能を説明した後、子どもによく見られる消化器疾患について解説します。また、泌尿器と生殖器の構造と機能を説明した後、子どもによく見られる泌尿器疾患と生殖器疾患について解説します
第 9 回	テーマ:関連する養護技術 1　調乳と授乳 母乳、粉ミルクについて解説した後、調乳や授乳等新生児から乳児に必要な養護技術のデモンストレーションをおこなった後、練習をします
第 10 回	テーマ:関連する養護技術 2　おむつ交換 おむつ交換のデモンストレーションをおこなった後、練習をします
第 11 回	テーマ:子どもの疾病と予防及び対応 6　骨・感覚器・歯科衛生 骨や筋肉、感覚器の構造と機能を説明した後、子どもによく見られる整形外科的疾患と感覚器に関連する疾患について解説します。歯の構造及び齲歯について解説します
第 12 回	テーマ:子どもの疾病と予防及び対応 7　内分泌・アレルギー ホルモンと生活リズムについて説明した後、子どもによく見られる内分泌疾患について解説します。また、子どもによく見られるアレルギー疾患を解説し日常生活管理の方法を説明します
第 13 回	テーマ：子どもの疾病と予防及び対応 8-1　子どもによく見られる感染症 免疫機能について解説した後、子どもによく見られる感染症を説明します
第 14 回	テーマ：子どもの疾病と予防及び対応 8-2　予防接種 子どもに必要な予防接種、学校感染症の取扱いについて解説します

第 15 回	テーマ：子どもの疾病と予防及び対応 9　脳神経系・精神領域 脳神経の構造と機能を説明した後、子どもによく見られる疾患について解説し、特に痙攣等発作に対する予防と対応方法を説明します
テキスト	子どもの保健と安全　第 3 版、髙内正子（編著）、教育情報出版、2021、2,270 円+税
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	講義は基本的にパワーポイントを用いておこない、教科書にない資料は別途プリントで配布します 参考にして欲しい雑誌：チャイルドヘルス
課題に対するフィードバックの方法	技術演習時の記録シートは、確認後コメントを附して速やかに返却し、復習の手助けに使用してください。 定期試験は、採点後、返却します。間違った箇所は必ず見直してください。
学生へのメッセージ・コメント	1 年前期で学修した「保育の心理学」「子どもと健康」を踏まえた科目です。今までの学修した内容を復習しておいてください。 この科目の自作ノートは多くの卒業生がそれぞれ保育現場で活用しています。スライドを丸写しするのではなく、必ず自分の言葉でノート作成をしてください。ノート作成をする中で、関心のある事項についてはぜひ調べて更なる学習に発展させてください。 最初に子どもの体調不良に気付くのは医師や看護師ではありません。子ども達の最も身近にいる保育士や幼稚園教諭が気付いて対応しなければ大変なことになります。そのためにも本科目の知識は大切です。内容は難解で量も膨大ですが、頑張って学習してください。授業のスピードも必然的に速くなります。質問や勉強会はいつでも受け付け、開催しますので、分からないことを置き去りにしないようにしてください。